教育ほっとらいん 保護者版

令和８年10月号
発行：貝塚市教育委員会
学校教育課

特　集　令和８年度　全国学力・学習状況調査

４月に全国の小学６年生と中学３年生を対象に「令和８年度 全国学力・学習状況調査」が実施されました。今年度は、小学校で国語・算数、中学校で国語・数学・英語の「教科に関する調査」及び「質問紙調査」が行われました。（英語の調査は３年に１回で、前回実施は令和５年度）

この調査における貝塚市の傾向や結果分析について、概要をお知らせします。詳しくは、市のホームページで公開しています。また、学校教育課及び貝塚市教育研究センターにてリーフレットの配布もしています。

貝塚市教育委員会は、この分析結果を学校や保護者、地域の方々と共有し、今後の本市の教育施策や学校の取組みに生かすことにより、本市の教育を一層充実させてまいります。

なお本調査により測定できる学力は特定の一部であり、学校における教育活動のひとつの側面を表すものです。

【教科に関する調査の結果と成果】

〇平均正答率(%)

小学校	貝塚市	大阪府	全国
国語	５９	５９	６０.９
算数	５６	５６	５６.４

中学校	貝塚市	大阪府	全国
国語	５６	６１	６３.９
数学	４９	５５	５７.０

英語 中学校	貝塚市	大阪府	全国
平均正答数	3.6	4.4	4.5
平均IRTスコア	460	497	499

平均正答率は、小学校においては国語・算数ともに全国との差が縮まり（対全国比が向上）、算数の「思考・判断・表現」などで全国平均を上回る成果が見られました。

中学校においては、国語・数学・英語で全国との差が広がるなど課題が見られます。英語については今年度から1人1台端末を活用したオンライン（IRT方式）での実施となり、出題形式や評価方法が従来と異なります。

「自分の考えをまとめる、工夫をして発表している」については肯定的な回答の割合が大阪府・全国を上回る

「工夫して発表していますか。」に対する小学校の肯定率は、７１.８％（全国６６.４％）、「各教科などで学んだことを活かしながら自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。」との問いに対する中学校の肯定率は、７２.３％（全国７０.８％）となり、授業の中で自分の考えを整理し、工夫して分かりやすく発信しようとする姿勢が育っています。



【児童・生徒質問紙調査の結果から】

家庭と学校で協力し、望ましい「ICTの使い方」へ

平日に学習以外でスマホやタブレット等を「４時間以上」使う子どもたちの割合は、小・中学校ともに年々増えており、令和８年度は小学校で３３.４％（全国２１.９％）、中学校で４７.６％（全国２９.８％）となりました。学校での学習でタブレット等を活用する機会が増える一方で、ご家庭での動画視聴やSNSといった娯楽での利用時間がとても長くなっていることが気になるところです。ここで大切なのは、機器そのものを遠ざけることではなく、「上手に付き合う使い方」を身につけることです。 長時間の利用は、子どもたちの健やかな生活リズムや学習習慣にも関わってきます。一人ひとりが自分に合った使い方を学んでいけるよう、ぜひご家庭と学校が協力して、適切な活用方法やご家庭等での使用ルールを見直していきましょう。

【今後に向けて】

今年度は、子どもたちに主体的に学ぶ姿勢が身につき、学校における日常的なICT活用も進みました。一方で、小中学校ともに「根拠を示しながら書く力」などに課題が残っています。この力を身につけるには、自ら考え行動する姿勢が不可欠であることから、貝塚市では課題を自分ごとで捉え未来を切り拓く力「貝塚エージェンシー」を新たに策定し、全教職員で指導方針を共有しました。

エージェンシーの育成にはまず基礎学力の定着が大切であるため、デジタルドリル等を活用した「個別最適な学び」により、一人ひとりの習熟度に応じた反復学習で基礎・基本をしっかり定着させます。さらに、教科等の学習の中で「問いをたて、調べ、比べ決め、発信し、ふりかえる」といった探究のプロセスを重視し、自ら考え表現する力を高めてまいります。学校・家庭・地域が一体となり、子どもたちの自己肯定感や挑戦する心を温かく育んでいきましょう。

大きくなって戻ってきてね！　親しむ阪南の海～稚魚放流体験及び船上見学～



１０月５日、８日に、「第４５回全国豊かな海づくり大会～魚庭の海 大阪大会」の関連イベントとして「親しむ阪南の海～稚魚放流体験と船上見学～」が行われ、津田小学校と永寿小学校、二色学園前期課程の児童が参加しました。

「稚魚放流」では、放流するキジハタ（アコウ）について学んだ後、水槽の稚魚を網ですくってバケツに入れ、スロープを伝わせて海へ放流しました。子どもたちは、「大きくなって戻ってきてね」という思いを込めながら海へ放しました。

また、大阪港湾局の旅客船兼監督船「はごろも」に乗船し、阪南港を見学しました。実際の港の様子を船の窓から見学し、さまざまな船の働きや物流について、クイズも交えながら楽しく学びました。

港や船、魚、海の環境について、実際に見たり聞いたり、体験したりしながら学ぶことができた、貴重な機会となりました。





外国からの荷物は99%が船で運ばれているってわかりました。海の安全のために船の警察官が安全を考えているんだと思いました。



アコウの稚魚放流をして、これからあの稚魚たちは大きくなって、数を増やすんだなと思いました。



橋の下を船から見ることができてうれしかった。稚魚は海に返されて大きくなっていくのが楽しみです。

三夜音頭を、自分たちの手で！～北小学校4年生の探究学習～



↑地域の方々への聞き取り

北小学校の４年生は、現在、総合的な学習の時間に、地域で受け継がれてきた伝統的な盆踊り「三夜音頭」について学んでいます。全国各地で祭りや地域の伝統行事の継承が難しくなっていることを知ったことをきっかけに、「自分たちの地域はどうなんだろう？」という疑問を持ち、地域で受け継がれてきた三夜音頭についての探究学習を始めました。

まず、三夜音頭に関わっている地域の方々にお話を聞きました。三夜音頭への思いや、高齢化によって次の世代へ引き継ぐ難しさがあることを知り、「三夜音頭を未来に残したい！」という声が児童たちから上がりました。

さらに学習を進めていく中で、貝塚市立図書館に三夜音頭の資料があることがわかりました。児童が自分たちでできることを考えて図書館に問い合わせ、資料を借りることができました。

現在、子どもたちは「どうしたら三夜音頭をもっと知ってもらえるだろう。」と考え、三夜音頭の歌詞や踊りについての調べ学習を進めながら、自分たちにできる取組みを模索しています。自主的に紹介ポスターを作ってきたり、「次の総合の時間はまだかな。」と学習を心待ちにしたりする児童もおり、主体的な学びが広がっています。

「貝塚は大昔、海だった！？」名探偵つげさんと挑んだ化石発掘

９月２６日、「貝塚学子ども講座 名探偵つげさん『貝塚海洋ロマン』貝塚は大昔、海だった⁉」を実施しました。今回は、地層や化石を手がかりに、貝塚の海の歴史を探りました。

まず、フィールドワークに出発し、実際に地層を見学しながら、化石研究をされている講師の松永豪先生から、貝塚市の断層や、そこに残された化石について教えていただきました。「貝塚は昔、海だった」という話や話題のモササウルスの話など、子どもたちは驚きながらも、目の前にある地層や化石を手がかりに、遠い昔の貝塚の姿を想像していました。

次に、子どもたちは、実際に化石を発掘する体験に挑戦しました。どんなものが見つかるか、わくわくしながら化石の入った石【ノジュール】を観察し、夢中になって発掘に取り組みました。

これからも子どもたちが貝塚の魅力に触れ、実際に見て、聞いて、体験しながら学べる講座を企画していきます。ぜひご参加ください！

